

2025年度 入試問題分析シート

北海道大学

前期日程 理系

科目	数学
----	----

総括

試験時間	120分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	150点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

＜総論＞ 昨年と比べて解きやすい問題が増えて計算量も少なくなったが、細かいところで受験生の躓くポイントがあり、完答するのが難しい問題もある。 ＜特記事項・トピックス＞ - ベクトルが出題されなかった。空間図形もなかった。 - 複素数平面が2年ぶりに出題された。 - 数学Ⅲの微分の出題がなかった。 - 場合の数が出題されたが、確率は出題されなかった。 ＜合格への学習対策＞ まずは、基本を徹底的に身に付けること。教科書にある問題は完全に解けるようにしよう。また、日頃から丁寧に記述する習慣を身に付けて欲しい。北大の問題では計算力と論証力で高いレベルのものが要求されている。微分や積分をはじめとする計算の問題にもしっかりと取り組んでおきたい。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
1	記述	Ⅱ B	指数関数・対数関数 数列	等比数列 $\{a_n\}$ の一般項から数列 $\{b_n\}$ の一般項を定め、 b_n の考察をする。 a_n の項の積の整数部分についても考察する。	やや易
2	記述	Ⅱ C	図形と方程式 2次曲線	円の外部の点から引いた2本の接線と2本の半径で囲まれた四角形の面積を求め、その最大値と最小値を求める。	易
3	記述	Ⅲ	積分 極限	指数関数と正弦関数の積の定積分を計算し、その極限を求める。	やや易
4	記述	C	複素数平面	複素数平面上で方程式を満たす z 全体の集合を図示し、その結果を用いて連立方程式が解をもつ条件を求める。場合分けをきちんと行うことがポイントである。	標準
5	記述	A	場合の数	不等式を満たす整数の組の総数を考察する。(2)では(1)をどう利用するかがポイントである。	やや難

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。